

和 敬 会

学祖 松本生太先生 筆

和 敬 会 だ よ り

2017.4.19 発行 19号



平成30年に
総会開催!!

八年ぶりに会員の皆様と
お会いできる総会を開きます。

※平成30年10月14日(日)

※鎌倉女子大学

岩瀬キャンパス

松本講堂

「講演会」・「カフェ和敬会」
も予定しています。

企画内容は

平成30年4月発行の

「和敬会だより20号」を
お楽しみに!!

※参加費は無料です。

鎌倉女子大学和敬会

☎247-8511 鎌倉市岩瀬1420 ☎0467-44-2200

鎌倉女子大学和敬会

検索

最近の学園の動きの幾つか

理事長 福井 一光

幼稚園から大学院までの活動はまことに多岐にわたり、その全てにわたってご紹介するにはとても紙幅が足りませんので、この一年の活動の中から三つばかりをピックアップしてご紹介させて頂こうと思います。

一つは女子大学連盟の年次総会の開催です。「女子大学教育及びその特質の調査・研究」を行なうことを目的とする「女子大学連盟」という団体があります。国公立の伝統ある全国二九女子大学によって編成されたもので、昨年の同志社女子大学に引き続いて今年には本学が当番校となり、一〇月八日（土）、大船キャンパスで開催されました。参加した女子大学のトップリーダーの先生方によって女子大学の将来像について相当突っ込んだ意見交換が行なわれました。



女子大学連盟総会



附属校サミット

もう一つは通称「附属校サミット」といわれる「全国私立大学附属併設中学校・高等学校学校教育の研究集会」の開催です。事務局は立命館大学におかれ、今回は一〇〇名を超える参加者を得て、二月一八日（金）、一九日（土）の二日にわたり岩瀬・大船両キャンパスを使って国語・数学・社会・英語・理科・家庭の各教科の公開授業や、また「なぎなた」や「立ち振る舞い」など本学の特徴ある教育活動をご覧頂きました。「周到な準備と温かいおもてなしが素晴らしいかった」という感謝の言葉が寄せられたそうです。

最後にご紹介するのはミャンマー国教育視察団の来訪です。これは本学児童学科の坂田



ミャンマー国教育視察団

映子准教授（和敬会会員）がJICAのプロジェクトを通じて彼の地の小学校教育の指導を続けてこられた縁によるもので、今回で三回目の来訪です。

一月三〇日（水）の初等部での交換会の後、一四名の方々を代表してウィントン・タウン教育省教育研究・計画・研修局長、マングレー教育大学長、ヤンゴン大学学部長、サガイン教育研究所准教授の四名の方が理事長室を訪ねて下さいましたが、単なる表敬訪問というに止まらず、ミャンマーの目下の教育状況や教育方法、また明治以降の日本の教育状況や教育方法の変遷などについても実質ある意見交換を行なうことが出来ました。

また来年度も多彩なエピソードをご紹介出来ればと願っております。

磨而不磷

— ますれども りんせず —



和敬会会長

金子小夜美

「若さは 年とは関係ない
年では測れない」

この言葉通りに、生き生きと活躍されているたくさんの方の和敬会会員の皆様、お元気にてお過ごしのことと思います。

昨年は、熊本県や鳥取県での大規模地震・台風十号による災害・酷暑・等々天変地異に懐くことが多々ありました。和敬会の皆様は如何でしたでしょうか？ なかなか皆様と連絡がつかない事もあり幹事一同心配しております。どうぞ、お元気で過ごしてください。また、住所等の変更がありましたらご一報ください。

表題の「磨而不磷」は「論語」に載っている言葉です。

「硬度の高いものは、磨いても薄くならない」という意味です。



私たちの中には、幾つになっても生きがいはあります。何を「生きがい」とするかは人によって様々です。

よく「失敗を恐れず、やってみよう」と言われます。また、「失敗し痛みを感じて身についたことは、大きな糧になる。」とも言われます。二つとも頷かされることですが、なかなか一歩を踏み出すことが出来ません。しかし、皆様は、自分の中にどんな

《砥石》が来ても決して薄くならないものを蓄えているのです。

学校での学び、社会に出てからの研鑽を基にして、もてる力を・才能を十二分に伸ばして日々を生き、活躍しておられる事がその証です。

縦のつながりでは

「自分の想いを形にして後世に伝える」横のつながりでは

「今を生きるために、必要な人との触れ合いを大切にする」

この交差点に私たちは立っているのです。自分自身を大切にしつつ、手を携えて行きましょう。

鎌倉から目白へ

目白大学名誉教授

谷田貝 公昭



鎌倉女子大で四年間寮と教育史を担当し、父親の創立した学校法人目白学園へ戻り、理事長で短大教授（後、学長）をしていた佐藤弘毅先生からある日、「相談したいことがあるので会いたい」旨電

話をもらいました。都内のホテルで会った、「四年制大学を造りたいのでその仕事をし

てくれませんか」というのです。私は、二つ返事で引き受けることにし、翌年三月、十八年お世話になった鎌倉女子大学を辞め、四月から目白学園女子短期大学教授となりました。

当時は、都区内は大学造りは禁止でした。そこで紆余曲折を経て、さいたま市岩槻区に土地を求め、人文学部をスタートさせることができました。そ

の後、大学設置基準の大綱化が進み、都区内地の設立が可能となり、学園本部のある新宿区内に人間社会学部を開設し、現在六学部十六学科、大学院七研究科となっています。

こうした中で思い出深いことの一つは、佐藤先生から、「保育者養成をしたいのでその仕事をして欲しい」といわれ、平成十五年に子ども学科を開設したことです。スタッフは、専任、非常勤共ほぼ私の関係者で組織しました。目玉の一つは、小動物の飼育や草花一本育てられないで、子育てはできるはずがないという固い信念から、「飼育・栽培」（現在は「子どもと自然」）

という科目を開設し、理論と実習を三年間必修としたことです。薩摩芋を育てたり、田植や稲刈りをし、学内では鳥骨鶏、兎、ミニ豚等々の飼育、花壇作り等、年間を通して学生たちが当番制で休日も担当しています。

私は、平成二十五年、定年で退職しました。後は、私の片腕となって働いてくれた鎌倉女子大での教え子の高橋弥生（旧姓、佐久間、児童学科五十八年卒）さんが、学科長として頑張っています。これからの発展が大変楽しみです。

短大・大学

「建学の精神を受け継ぐ時間」

学長先生が担当されている授業「建学の精神」の最終週の講義では、場所を教室から外に移して労作教育が行われます。労作教育の時間では、初夏の日差しのもとで汗を流しながら、東山庭園に高く生い茂った雑草を抜きます。皆で協力して行う労作の時間のなかで「感謝と奉仕に生きる」を学んでいます。

また、鎌倉女子大学・鎌倉女子大学短期大学部に入学すると間もなく入学坐禅が行われます。入学と卒業という人生の節目に自分自身と向き合い「人・物・時を大切に」の精神に触れています。

このように鎌倉女子大学の建学の精神は後輩たちに脈々と受け継がれています。



「感謝と奉仕に生きる」の実践

平成26年度より新たな学生支援プログラムとして「グリーンプロジェクト」がスタートしました。

建学の精神「感謝と奉仕に生きる」を実践する学生の主体的な社会貢献活動を推進・支援する取組です。平成28年度には、「熊本地震募金プロジェクト」、「大学は美味しい!!」フェアプロジェクト、「かなチャンTVサポーターズ」の3団体が新たに採択されました。この3年間で合計9つのプロジェクトがそれぞれの活動を行い、地域社会から高い評価を得ています。その一例として、平成27年度には地域の防犯活動を継続的に行ってきたセーフティサポーターとクリーンアップ隊の活躍が認められ、大船警察署ならびに大船防犯連合会から感謝状をいただきました。



輝く今...

中・高等部

学校に会社を作ろう！KBP

中等部1年生から高等部2年生までの生徒全員が、起業活動を通して、社会に貢献することを目的としたKamakura Beyond Project (KBP)を立ち上げました。これは、本校の教育コンセプトである「生徒主体型学習」の取り組みの一つで、「自己の感性や価値を高め続け、社会で活躍できる人材」を育てるものです。中等部3年生が中心となり、2年後の会社設立に向けて活動中です。これまでに事業の仕組みや起業の心構えを学んだほか、鎌倉市内の会社やNPO法人を訪問し、企業活動の具体的内容について理解を深めました。

こうした取り組みが注目されて「目指せ高校生起業家」として9月26日の神奈川新聞に、みどり祭での企業設立発表会の様子が掲載されました。

マーチングバンド部「金賞」受賞

平成28年12月18日(日)さいたまスーパーアリーナで行われた「第44回マーチングバンド全国大会」の高等学校の部 中編成でマーチングバンド部が金賞を受賞しました。



英語教育の取り組み FITS

中・高等部で今年度からスタートしたFITS Programは、2020年度から始まる新しい大学入試制度にいち早く対応した本学独自の英語教育プログラムです。様々な教育コンテンツがForm、ICT、Training、Student centeredの4本の柱を構成しており、特にICTに関しては「スカイプ・コム」という画期的なプログラムを開発しました。インターネット上のビデオ通話を用いて海外のネイティブ講師とマンツーマンで授業を行い、1回25分間の英会話のレッスンを年間10回以上実施します。オリジナルの教材を用いることで、単に英会話を楽しむだけでなく、生徒の習熟度に応じた学習効果の高いレッスンを提供しています。

初等部

「第8回ECO壁新聞コンクール」で入賞

朝日小学生新聞と全国銀行協会が主催する「ECO壁新聞コンクール」において、昨年の第8回大会で初等部児童が大変優秀な賞をいただきました。全国から過去最高となる9,628作品の中から、当時4年(現5年)の山地真秀くんが「朝日小学生新聞賞」を受賞し、同じく4年(現5年)の海老原朋輝くんが「優秀賞」を受賞しました。「ECO壁新聞コンクール」は4年生の冬休みの課題として取り組んだものであり、これまで総合の授業で学習してきた内容や生活の知恵などを活用して、地球環境の保全に対する取り組みを文章とそれに付随したイラストなどで新聞としてまとめたものです。



「日本美術の教育文化交流展」

昨夏、本校6年生児童が図工科で取り組んだ作品48点が鎌倉芸術館1Fギャラリーにて展示されました。

本展示では来場者の投票により、鎌倉市長賞に小沼美月さん、鎌倉市教育委員会賞に田中晴人君がその栄誉に与りました。



「鎌倉市長賞」
小沼美月 サンドアート
(作品名: オーシャンズ)



「鎌倉市教育委員会賞」
田中晴人 切り絵
(作品名: 青い地球)

会期: 平成28年8月23日～25日

会場: 鎌倉芸術館1Fギャラリー

企画: エバーメディアプロモーション

内容: 鎌倉市内の幼稚園・小学校各1校から幼児・児童が制作した絵画と、一般の美術作家の作品を一堂に展示し、年齢や表現を超えた美術の交流発展を図るものです。



昭和60年度 家政学部児童学科卒業

四国霊場第三十八番札所
蹉陀山 補陀洛院 金剛福寺 寺族

長崎 美香 (旧姓山崎)

四国最南端 足摺岬便り

ふだらくや こは岬の船のさを
とるもすつるも 法の蹉陀山

和敬会会員の皆様、こんにちは。

私は昭和六十一年三月に家政学部児童学科を卒業致しました。早いもので三十年の月日がたちました。卒業後、ご縁を頂き高知県の足摺岬に住しております。四国最南端足摺岬は、太平洋と蹉陀山に抱かれ、海上から見上げる岬の景色は自然界が創りだす曼荼羅さながらの五彩を放ちます。その岬に建つ四国霊場第三十八番札所金剛福寺は嵯峨天皇の勅願寺として弘法大師様に開山され千二百年脈々と『補陀洛東門』を守り、観音信仰、補陀洛信仰の聖地として老若男女たくさんのお遍路さんがお参り下さいます。その寺族として法灯を守っております。

年中行事や宿坊でたくさんの人々に出会い、個々の悩みを聞き、親奥として不勉強さを知り、四人の子供の手が離れた四十歳の時、高野山大学大学院

密教科に入学し、寺務・子育て・介護・学業論文と、家族・スタッフに支えられながら修士修了書を習得しました。仏教と臨床心理・教育・終末医療など、高知県の母親教育委員として活躍させて頂いております。合唱団でお教え頂いた宗教音楽の手法で、仏教音楽御詠歌を指導し、毎年四国大会・全国大会に出場でき講員一同喜んでいきます。

大自然の中、海に山に降り注ぐ光、そよぐ風、山川草木悉皆成仏祈りの場を日々感じております。皆様、是非足摺岬にいらつしゃって下さいませ。

上京の折、就職活動スーツ姿の学生を見るたび、走馬灯のように京浜女子大学生活・寮生活・合唱団・先生方・友人・等々たくさんのお教えを頂き、女性としての原点を育みご教導頂きました。感謝多謝。

鎌倉女子大学の益々のご発展と和敬会会員皆様のご多幸ご健勝をはるか岬よりお祈り致します。合掌

事務局から

永らく準備中であつた東北支部を三浦ゆかさん(昭和62年卒業)にお引き受けいただきました。支部長として、よろしくお願いいたします。

平成二十八年度みどり祭「Change! Change! 新しいページ」のコンセプトで十一月十九日、二十日の両日参加いたしました。この日は七十五歳以上の方と還暦の方をご招待し多数の方にご来場いただきました。さました。懐かしい思い出話に花を咲かせておられました。



平成二十九年度は六十三歳から、七十五歳までの和敬会員の皆様に招待状をお送りします。学園祭を知らない世代の会員の皆様、ぜひ大船キャンパスのみどり祭にお越しください。お茶と鳩サブレをご用意してお待ちしております。

一 地 方 支 部 ・ 支 部 長 一

北海道支部	村川 典子
東北支部	三浦 ゆか
甲信越支部	支部長を引き受けてくださる方、和敬会事務局までご連絡ください
北陸支部	橋本 玲子
東海支部	勝呂真理子
関西支部	永橋 馨
中国・四国支部	西迫喜久子
九州支部	金子真由美
沖縄支部	伊藝美智子

平成27年度 和敬会収支決算書

収入の部

費 目	金 額
同 窓 会 費	7,268,000
預 金 利 子	1,032
雑 収 入	—
前 年 度 繰 越 金	1,498,074
合 計	8,767,106

支出の部

費 目	金 額
事業費	和敬会便り出版費 4,508,342
	支 部 費 427,572
	H P 費 294,516
	み ど り 祭 579,796
運 営 費	592,361
事 務 費	198,000
設 備・備 品 費	60,316
通 信・連 絡 費	151,065
消 耗 品 費	34,894
総 会 準 備 費	500,000
慶 弔 費	16,416
支 出 合 計	7,363,278
繰 越 金	1,403,828
合 計	8,767,106

以上収支決算について公正、妥当であると認め、
相違ないことを報告いたします。

平成28年 6 月14日

監事

田中 幸子

監事

吉崎 陽子

「後期高齢者になつて思うこと」
昭和29年度卒業 杵鞭 悦子
昭和二十九年三月に、京浜女子短期
大学を卒業以来、現在八十三才の夫と
私八十二才の高齢者となりました。
三人の男子に恵まれ、七人の孫に囲
まれ、今年は曾孫の顔も見ることがで
きました。短大卒業六十二年もたちま
した。
もう戻ることはできません。しかも
老眼、動きはもろく、記憶力も劣り他
人に聞いてばかりの現在です。



右端＝筆者（杵鞭悦子）

でも、大勢の方々の旅をしたり、踊
りを楽しんだり、折り紙を折ったりの
毎日です。
この原点
は、学生時
代に九州か
ら北海道の
方々とお会
いできたこ
と、そして
クラス会や
若い方々と
の同窓会に

参加して、世間が広くなっていること
が元気の秘訣と考える昨今です。今は、
○大勢の方にお会いすること。
○＋思考で話すこと。
○大きな声で笑うこと。
○運動をすること。
こんなことを思いながらの生活です。
また近所付き合いを、志す現在です。
発展している鎌倉女子大学の「和敬
会だより」を見るにつけ、嬉しく思う
と同時に、自信が出て来るものです。
そして何事にも積極的に対処できるよ
うです。
ますますの発展をお祈りします。
◇ ◇
支部だより次回（六回）は東北支部
です。
宜しく願います。

支部だより

第五回

甲信越支部

鎌倉女子大学

図書館よりお知らせ

大学図書館では、大学院・大学・
短期大学の希望する卒業生の皆
様へ向けて、館外貸出サービス
を開始しました。

貸出内容

図書2冊2週間まで

必要書類

現住所記載の身分証明書

詳しくは、図書館事務室

（☎0467-44-2291）へお

問い合わせください。図書館ホー

ムページでもご案内しております。

訃報

大岩 弘典 先生

臨床栄養学 ご担当

平成二十八年 六月二十四日 ご逝去

成瀬 宇平 先生

食品学 ご担当

平成二十八年 八月二十三日 ご逝去

大石 菊枝 様

寮母

平成二十八年 一月二十二日 ご逝去

ご冥福をお祈りいたします

第22回鎌倉女子大学学園祭



平成29年「カフェ和敬会」は、
大船キャンパスに参加します。
お誘い合わせのうえおこな下さい。

短・大学 11月3日祝・金
4日(土)

大船キャンパス

幼・初等部 11月11日(土)
12日(日)

中・高等部 9月16日(土)
17日(日)

岩瀬キャンパス

第23回鎌倉女子大学学園祭

お誘い
みどり祭
「カフェ和敬会」



鎌倉女子大学

大船キャンパス

大学院

大学 家政学部 児童学部 教育学部

短期大学部

〒247-8512 鎌倉市大船6丁目1番3号 TEL.0467-44-2111 (代表)

JR「大船駅」下車、徒歩8分

岩瀬キャンパス

高等部

中等部

初等部

幼稚部

〒247-8511 鎌倉市岩瀬1420 TEL.0467-44-2200 (代表)

JR「大船駅」下車、バス約10分